

大河津分水路の改修事業 環境保全への取り組み（案）

平成 28 年 9 月

国土交通省 北陸地方整備局
信濃川河川事務所

本書に掲載した地図は、国土地理院長の承諾を得て、同院発行の数値地図 20000 (地図画像)、
数値地図 50000 (地図画像) 及び数値地図 25000 (地図画像) を複製したものである。
(承認番号 平 28 情複、第 546 号)

大河津分水路の改修事業 環境保全への取り組み（案）

目 次

はじめに

1 大河津分水路の改修事業の経緯	1-1
2 大河津分水路の改修事業の位置、目的及び内容	2-1
2.1 大河津分水路の位置	2-1
2.2 大河津分水路の改修事業の目的	2-1
2.3 大河津分水路の改修事業の内容	2-1
3 大河津分水路周辺の概況	3.1-1
3.1 地域の自然的状況	3.1-1
3.2 地域の社会的状況	3.2-1
4 調査、予測及び評価の項目	4-1
4.1 項目の選定	4-1
4.2 項目の選定理由	4-2
5 環境保全への取り組み	5-1
5.1 大気質	5.1-1
5.2 騒音	5.2-1
5.3 振動	5.3-1
5.4 水質	5.4-1
5.5 底質	5.5-1
5.6 地形及び地質	5.6-1
5.7 動物	5.7-1
5.8 植物	5.8-1
5.9 生態系	5.9-1
5.10 景観	5.10-1
5.11 人と自然との触れ合いの活動の場	5.11-1
5.12 廃棄物等	5.12-1

<はじめに>

信濃川はかつて度重なる水害によって越後平野に壊滅的な被害を与えてきました。そのため、増水した水の一部を越後平野に入る前に日本海へ流し、洪水被害をなくすことを目的に、大河津分水路が造られました。大河津分水路は 1922 年（大正 11 年）に通水し、以後 90 年以上にわたり越後平野を水害から守り続けています。

しかし、大河津分水路の河口に位置する山地部は狭窄部であり、洪水を安全に流下させるための河積が不足しています。このため、戦後最大規模の洪水が流下した場合、計画高水位を超過する区間は、信濃川本川上流の蔵王橋付近まで及び、堤防決壊等に対する危険度が高まります。このように、大河津分水路の抜本的対策が急務となっていることから、平成 27 年度に新規事業として大河津分水路の改修に着手しました。

大河津分水路の改修にあたっては、人工河川ではあるものの、工事の規模等を考慮し、この 90 数年間に形成された自然環境を十分把握するための周辺環境調査を実施し、環境に配慮しながら事業を進めることが必要であると考えています。

このたび、大河津分水路の改修事業の実施における環境影響検討結果と環境の保全のための措置をとりまとめた「大河津分水路の改修事業 環境保全への取り組み」を作成し、公表することとしました。なお、山地部等の掘削に伴い発生する土砂の運搬計画については現在検討中であり、今後計画が決まり次第、調査、予測を実施し、本資料の追補資料としてとりまとめ、公表していく予定です。



写真 第二床固工の現在（平成 27 年 6 月撮影）